



西東京市立栄小学校

令和8年4月30日(木)

西東京市栄町 2-10-9

TEL 042(423)0276

怒る 叱る 指導する

副校長 菊池 佑介

新年度になって、早1カ月となりました。緊張していた子供たちも少しずつ表情が柔らかくなり、若干、疲れも出てくる頃だと思います。

さて、「怒る」、「叱る」、「指導する」の違いを皆さんはご存じでしょうか。今流行りのAIで調べたところ次のように出てきました。

- ・怒る ⇒ 不満や感情を爆発させ、相手に腹を立てること
- ・叱る ⇒ 目下の者のよくない行為を指摘し、咎めること
- ・指導 ⇒ ある目的に向かって教え導くこと

よく子供たちは、「先生に怒られた。」と言います。おそらく前述の意味を理解した上で話している子供は多くないと思います。しかし、「怒られた。」という話を聞いた大人は、「感情を出しながら大声やそれに近い行為を子供に行った。」と理解するのではないかと推察します。

「叱る」についても、教師が行うこととしては、少し違うのではないかと考えます。よくない行動を強く非難し責めるだけでは十分ではないと考えるからです。叱られたことで反省し、行動を改める子供もいると思いますが、責められたことで萎縮し、行動を改めるどころか今後のよい行動につなげることが困難になる場合もあるからです。

このようなことから、私は常日頃から、「教師は、怒ったり叱ったりするのではなく、指導する立場」であることを子供にも先生たちにも伝えていきます。昨年度まで学級担任に入っていたときも、よくない行動をした子供が、私から逃げようとする理由を聞くと、「副校長先生に怒られるから。」と言いました。私は、「副校長先生は、絶対に怒らない。〇〇さんによい行動をしてほしいから、なぜよくない行動をしたのか教えてくれる？」と話すと、子供は正直にやったこと話し、これからどうしたらよいかを一緒に考え、行動を改めるようになりました。指導しても繰り返すよくない行為や友達に迷惑を掛ける行為に対しては厳しく指導します。ただ、初発のよくない行為に対しての指導は、必ず丁寧に指導します。先生たちにも、強い叱責は、一時的な行為の抑止にはなるが、意味理解が十分ではないため、自立的な成長にはならないことを伝えていきます。

最後に、子供たちの成長に、保護者と学校の連携は不可欠です。お互いの立場を理解し、それぞれの強みを生かしながら、子供たちのよりよい成長に向けてともに歩んでいけると幸甚です。よろしくお願いいたします。

5月の生活目標:「係や当番の仕事を力を合わせてしっかりやろう」

5月に入り学校生活にも、ずいぶん慣れて来たのではないのでしょうか。クラスの係や当番の仕事にも、しっかりと取り組んでいます。自分たちの力で、学級生活を楽しく豊かなものにしていく大切な仕事です。協力して仕事をしていくことで、友達同士仲良くなるきっかけにもなります。また、高学年は委員会活動もあります。学校生活がより充実したものになるように何ができるか自分たちで考えながら活動していきます。どちらも頑張って取り組むようにご家庭でもお声かけください。